

ザンビア支援 吉野川市のNPO

現地医師の指導開始

【ザンビア＝乾柴里子】アフリカ南部・ザンビアで心臓外科医の指導、育成に取り組むNPO法人「TICCO」（吉野川市）の医療チームが現地に到着し、1月31日（現地時間）から首都ルサカでザンビア人医師のトレーニングを始めた。人工心肺装置を使った心臓外科手術に備え、4日間にわたり講義と実技演習を重ねる。チームは5日から、心臓の一部に開いた穴をふさぐ心房中隔欠損（ASD）の閉鎖手術を4例行う。

トレーニングはルサカ順を踏み、執刀予定のカ市内のザンビア大付 現地医師4人は人工心臓教育病院で実施。T肺につなげる管を心臓IICOの松村武史医師に装着。心臓の切り取り（46）が指導役を務め、りと縫合作業に慎重な人間の心臓と似ている 手つきで取り組んだ。豚の心臓を使った模擬手術を行った。松村医師は模擬手術手術では、心臓を包む ケアや注意点に関する心臓の一部を切り取り 講義も行い、「合併症り、穴に接ぎ当てる。バの可能性なども考慮ッチ閉鎖」を行う予定。し、準備から術後ケア模擬手術でも同様の手 までしっかりと計画を

豚の心臓で模擬手術 5日から本番

立てて手術に臨む必要がある」などと心構えを説いた。

本番の手術は子ども2人、大人2人を対象に、現地医師が1人ずつ執刀する。子どもの手術を担当するエマニエル・リーチ医師（35）は「心臓疾患を抱える患者はザンビア国内に多いが、これまでは外国人医師に頼るしかない。日本の医師団が技術伝達をしてくれよううれしい。手術を成功させたい」と意気込



松村医師の指導の下、豚の心臓を使った模擬手術に取り組みザンビア人外科医らにザンビア・ルサカのザンビア大付属教育病院